

皆様におかれましてはお元気にお過ごしのことと存じ上げます。  
暦では、2010年もあと1ヶ月になりました。今年もいろいろなことがありましたが、皆様にとってどんな年だったでしょうか。

さて、前回より「高齢者の抱える生活課題と対応」という生活情報を皆様に提供しております。今月は「住い」です。住み慣れた家に住むことは理想ではありますが、家の中での転倒危険、独りでの生活に不安、介護状態になったときなど住い方にもいろいろあります。このような多様な住いを紹介します。

内容について、ご質問等ありましたらどうぞお気軽にご連絡下さい。

お金	住居	食生活	付き合い	外出手段	生きがい	病氣介護	家督相続	死の迎え
----	----	-----	------	------	------	------	------	------

## ① 高齢者の家庭内事故死は 交通事故の2倍以上

高齢者の事故の発生場所の63%は、何と「住宅」なのです。その家庭内事故死は毎年1万人近くあり、交通事故の2倍以上の死者数なのです。

とりわけ、一番多いのは「居室」次に「台所」そして「階段」なのです。

そして、その行動状態で多いのは「歩いているとき」が一番なのです。高齢になると足腰が不安定になり、電源コードやちょっとした段差に足がとられ転倒することによります。

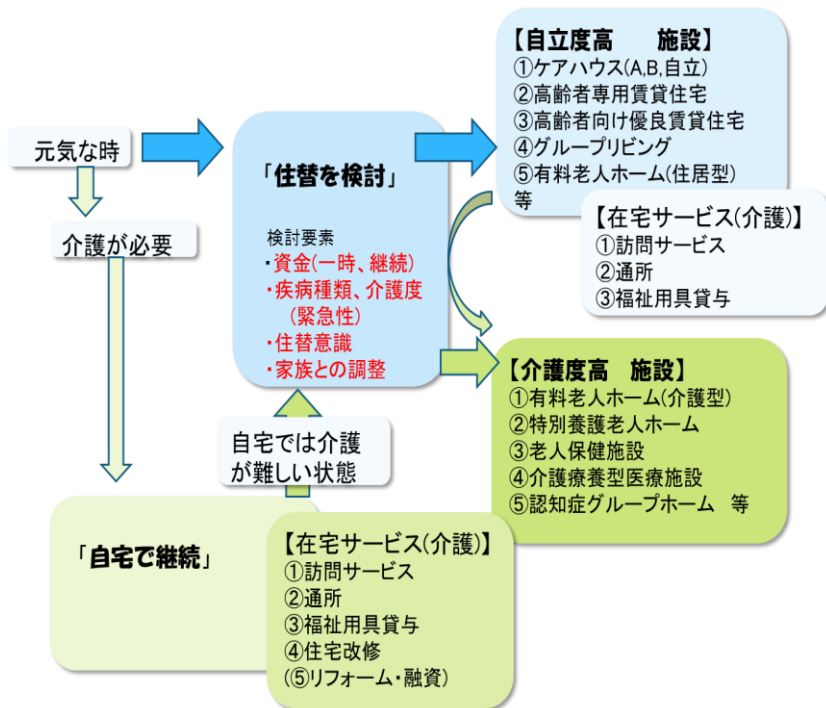
	60歳	75歳	88歳
ステージ	第一自立期 豊さを求める	自立期 見守りなど一部に生活支援が必要	介護期 常時介護が必要
居住空間	自宅	自宅 有料老人ホーム ケアハウス 高齢者向け賃貸住宅	介護保険施設 グループホーム 特定施設
必要な支援		緊急時サポート	緊急時連絡態勢/相談・見守り 食事サービス/お金の管理 介護・医療

## ② 多様な住い

高齢者の住いは制度的にいろいろ用意してあります。しかし、今の家を離れて、次の住いを検討するには、資金、家族の病氣状態、家族との調整などが必要です。

また、これらの判断時期は75歳と言われています。これは、日常生活力(判断力、意思、体力等)つまり健康寿命が76歳と言われていることによります。

最近、バリアフリータイプの高齢者専用賃貸住宅が広がります。政府は来年度から10年で60万戸を用意するとしています。



●お問合せはこちらまで

info@kitawel.com  
HK Welfare

北村 社会福祉士事務所(北村 弘之)  
〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3-7-7  
TEL:090-5340-0364 info@kitawel.com